

ひとはく通信

ハーモニー

119

Dec. 2022

新たな将来ビジョン2032 ～みんなと共に、地域と共に～



30周年記念イベント「ひとはく30祭」の様子

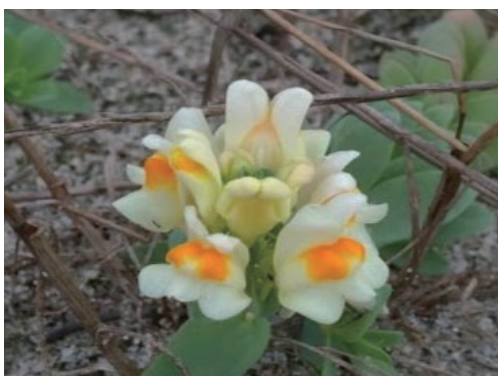
みなさんは、DNAや遺伝子という言葉を知っていますか？ 遺伝子とは、私たちが生き物の体を作る設計図で、DNAは遺伝子を構成する物質を意味しています。生物多様性を知り、また守るためにはこのDNA情報は大きく役立っています。

DNAはどのように役立つのでしょうか。例えば、見た目では区別できない外来生物が侵入した時も、DNA情報によってその原産地や由来がわかります。また、地域ごとの遺伝的な違いを明らかにすることで、その生き物本来が持っている遺伝的な違いを乱さずに人が移動させられる範囲(保全単位)を決めることができます。さらに、生き物が持っている遺伝子

の数(遺伝的多様性)を推定することで、絶滅の危険性についても推定することも可能です。いずれも、野外調査だけでは解明が難しく、DNA情報を用いることで初めてわかることになります。

ひとはくでは、これまでにサギソウ、ウンラン、イソチビゴミムシ、ウスイロヒョウモンモドキなどをはじめ、多くの絶滅危惧種のDNA情報を調べて、保護活動に役立てています。さらに、これまでは利用の難しかった博物館標本のDNA情報の利用も進めており、絶滅危惧種の過去のDNA情報の復元にも成功しています。

中濱 直之(生物資源研究グループ)



ウンラン(左)とウスイロヒョウモンモドキ(右)。どちらも兵庫県では絶滅の危険性が高い生き物です。

トピックス

ひとはくの開館 30 周年と新収蔵庫棟の開館を記念する式典・イベント

2022年10月29日、秋ならではの清々しい天気のもと、「開館30周年および新収蔵庫棟開館記念式典」を開催しました。会場は「新収蔵庫棟コレクションナリウム」の屋外広場です。式典には多くの皆様にご臨席いただきました。また、式典の最後に実施したテープカットと虫放天(ちょうちょを空へ放つイベント)にはそれぞれ31名、27名の子供たちが参加してくれました。子供たちの誇らしい表情がとても印象的でした。

一方、式典当日とその翌日には、開館30周年記念事業として「ひとはく30祭(さい)」を開催しました。この事業はイベント満載の「お祭り」です。市民グループの「NPO法人 人と自然の会」や「プロジェクトOhana」などの皆様から多大なご協力をいただきました。そのおかげで、子供・ファミリーを対象としたイベントを数多く実施することができました。屋内のイベントも屋外のイベントも大盛況で、あちらこちらで子供たちのはじけるような笑顔がみられました。

石田弘明(企画・調整室)



テープカット



虫放天



イベント(そとはく)

